

埼玉協と県による座談会 テーマ 「県と県内建設会社との連携の在り方」



参加者
埼玉県建設業協会青年経営者部会 平岩敏和 部会長(右)
埼玉県建設業協会青年経営者部会 吉川祐介 副部会長(左)
県土整備部 林雄一郎 参事兼河川砂防課長(中央)

大規模災害備え 平時から繋がりが強化

近年、大規模な水害や土砂災害が毎年のように発生し、行政と地元企業の連携がより一層求められる時代となっている。そこで「県と県内建設会社との連携の在り方」をテーマに、県土整備部の林雄一郎参事兼河川砂防課長、埼玉県建設業協会青年経営者部会の平岩敏和部会長、吉川祐介副部会長の3人による対談が実現した。平岩部会長は「スマートでカッコいい現場を」と訴える。吉川副部会長は「顔が見える人間関係」を強調。林参事は「河川の3D化」について語った。



スマートな現場目指す 平岩氏

建設と言えば、i-Constructionに積極的に取り組んでいるのでデジタルな人と思われていますが、凄く人間味に溢れるハートフルなお話ですね。私も同感で、災害協定の前提として、人と人のつながり、お互いの信頼関係が大切だと思います。



顔が見える関係性重要 吉川氏

ただ、道路が冠水すると国道、県道、市道が関係なくなるので、市民から直してほしい」と要望を受けています。さらにもう一つの災害に對して県や市から、それぞれ要請があった場合、どこから先手を打たなければならないか悩みます。今後は、国・県・市の横のつながりをどのように運用するか、が課題と見えています。



河川を3Dデータ化に 林氏

災害時の資機材の確保について
林 県土整備事務所には水防活動に使う土のうなどはありますが、機動的な現場対応を考えると、県も大型土のう袋や敷板などを一定量、備蓄すべきだと思います。そして、フリーの在庫管理ソフトなどを使い、この事務所としての程度の在庫があるのかを協会の会員企業の皆さんがクラウド上で把握できる環境があれば、災害時に相当な手間が省けると思います。

「担い手確保について
平岩 民間行政問わず人材が不足しており、業界全体で建設業のイメージを上げなければなりません。業界全体で働き方改革を進め、新卒を育成するための、汗を流す現場トレーニングから、吉川副部会長のようにならなくていい現場を目指して、今後は、電話でカッコいい建設現場を目

指さなければ根本的なイメージが変わらないんじゃないでしょうか。
吉川 弊社ではi-Constructionを積極的に取り組んでおり、測量機材や建設機械などを導入しています。結果的に今まで2~3人配置していた現場の省力化が可能となり、より多くの現場をこなすことができます。すると利益が上がり、待遇もボーナスも以前より多く支払うことができます。そういった好循環が回らないと、建設業でずっと働きたい人が出てきません。

林 私が土木を自指したころは、東京湾アクアラインの建設などビッグプロジェクトがいくつもありましたが、今の若い人たちは「ビッグプロジェクトに憧れる人が減っています。泥臭い建設イメージから脱却すれば、一気に見る目が変わります。建設屋はカッコイイ」になってほしいです。

吉川 弊社ではICTを前面に押し出していることで、採用がやりやすくなりました。また、ICTは実際に効率化を図る面もあります。が、カッコイイというイメージを作り出す面もあると思います。またICTで重要なのは測量で、ききほど林参事からあった話に加え、水面下のデジタルデータ

埼玉県建設業協会青年経営者部会 会員募集中

埼玉県建設業協会青年経営者部会は、建設業の経営力強化についての研究、経営者としての視野を深め、資質を高めるための講演会・研修会・各種視察の開催、関係団体との交流会及び情報交換会の開催を通じて、真の技術力、経営力を有する優れた地元企業として、地域社会に貢献して参ります。

語り合える仲間が、ここに居ます。私たちと共に活動しませんか？



会員交流事業

部会長	平岩敏和
相談役	真下敏明
副部会長	北清太郎
同	富田俊介
同	吉川祐介
同	田部井俊一
同	荒川和義
同	栗原雄一
同	荒木隆憲

会員数

現在81名
(2018年2月27日現在)

入会資格

埼玉県建設業協会会員等で50歳以下の事業者及び事業継承者。



新規ビジネス開拓事業



地域貢献活動



被災地支援事業



視察研修